



大阪労働学校・アソシエ公開講座

平和に生きる生存権の確立をめざして 日本国憲法をグローバル・コモンズに！



2024年 3月3日(日) 14:00—17:00

参加費500円

ウクライナ戦争の長期化は、局地戦争の域を超えて新たな世界大戦への危惧をつのらせています。昨年10月以降、中東でも、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザ地区への軍事侵攻によって幼い子供や女性の多くのいのちが奪われています。アジアの軍事的緊張を刺激する動きも高まっています。米日政府は「台湾有事」を叫び、沖縄をはじめとする南西諸島のミサイル基地化やそこへの自衛隊移駐など戦争準備へと向かう動きが進行しています。このような世界の臨戦態勢化・軍事体制化の急進展のなかで日本国憲法は「戦争放棄」の理念から逸脱化しつつあります。すでに集団的自衛権の行使を可能にした安全保障関連法の成立によって実質上の解釈改憲がおこなわれています。

このような破局を招来する状況にあつて、わたしたちは、たんに日本国憲法を戦争に対する防波堤にするだけではなく、平和に暮らすという＜民衆の安全保障＞の視点から地球上のすべてのひとの平和的生存権に向けて再創造することが求められています。

本公開講座では、この視点から積極的に発言を続けてこられたお三方に登場いただき、発言をいただきながら、軍事化の危機に抗する共通の認識を深める場を企画しました。

■**パストリッチ** — 『武器よさらば』で、憲法9条を地球環境の危機に対処するグローバル・コモンズとして再定義し、世界の諸国がこの視点から日本国憲法を受容するよう呼び掛けています。

■**大脇 雅子** — 『武器によらない平和を生きる』で、日本国憲法を民衆の非暴力抵抗運動の成果としてとらえ、すべてのひとが平和に生存する権利を謳った法の理念として再定義しています。

■**伊波 洋一** — 沖縄出身の参議院議員として、米軍と自衛隊によって軍事基地化が進む南西諸島をふたたび戦場にしない、という決意のもとに、軍事的緊張を煽る日本政府の動きに抗して、中国をはじめアジア諸国との対話を訴え続けておられます。とりわけ、日本政府は沖縄県民の自治と平和と生存の権利を踏みにじり、辺野古基地の埋め立てを強制代執行する法的な手続きを強行しました。民主主義と法を戦争へと向かう手続きへとすり替える国家の動きに抗して、わたしたちが地方自治と平和と生存の権利を謳い、民主主義と法を真実のものへと取り戻す闘いが喫緊の課題として求められています。

このお三方の発言と討論をとおして、軍事的危機にのめりこんでいく世界及び日本の状況に抗する集団的合意形成をたしかなものとしてうちかためていく、というのが本講座の主旨です。多くのみなさんのご参加をお待ちしております。

参加希望の方は、下記まで申し込みください。

hide.saito1000@gmail.com

参加費500円 以下までお振込みください。のちほど ZOOM の URL を送信いたします。

ゆうちょ銀行 名義：アソシエ（略称） 店番：019 預金種目：当座

店名：〇一九店（ゼロイチキユウ店）

口座番号：0567753 記号番号：00120-3-567753



大阪労働学校・アソシエ公開講座



● 発言者の紹介

エマニュエル・パストリッチ

1964年米国生まれ、1987年イエール大学で中国語の学位取得、
1992年東京大学で比較文化語の修士号取得、1997年ハーバード
大学で東アジア言語文化語の博士号取得、アジア研究所理事長。

著書

『武器よさらば—地球温暖化の危機と憲法九条』 東方出版、2019年

『私は悪を恐れない—2020年米国大統領選への出馬宣言』

デザインエッグ株式会社、2020年



大脇 雅子

岐阜出身、弁護士として労働・公害・離婚などの過程事件を手掛ける。

1992年より社会党の参議院議員として12年務める。

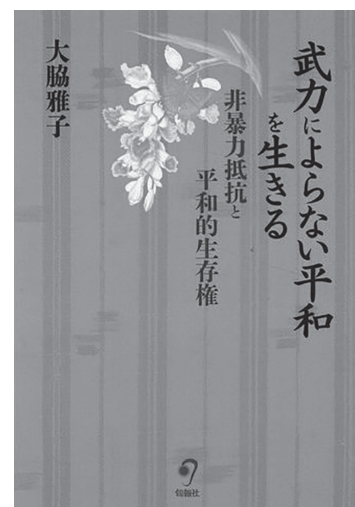
沖縄高江への愛知県機動隊派遣違法住民訴訟の弁護団長

著書

『均等法時代を生きる—働く女性たちの応援歌』 有斐閣

『武力によらない平和を生きる—民衆の非暴力抵抗運動と平和的生存権』

旬報社、2023年12月1日



伊波 洋一

1952年生、参議院議員、沖縄県萱野湾市出身、

著書

『普天間基地はあなたの隣にある。だから一緒になくしたい』

(かもがわ出版)

『戦場にさせない—沖縄からの「台湾有事」』

編集・発行立憲フォーラム、2023年

